

労災情報たかやま (H29.6月号)

高山労働基準監督署(安全衛生課)

平成29年5月末時点の労働災害発生状況について

主要産業の死傷者数

	平成29年		平成28年		対前年比 増減数		対前年比 死傷者数 増減率
全産業	(2)	69	52	(2)	17	32.7%	
製造業		14	20		-6	-30.0%	
建設業		10	5		5	100.0%	
運送業		6	3		3	100.0%	
林業	(1)	7	4	(1)	3	75.0%	
商業等	(1)	31	19	(1)	12	63.2%	

コメント

全産業における労働災害発生件数は5月末時点で**前年同期比約1.3倍**となっており3月末時点の倍増状態と比べれば、いくらか、増加率は減少傾向にありますが、まだまだ予断を許しません。

早めの熱中症対策をお願いします！

5月で既に気温が30 を超える日があるなど、夏季に向かって、熱中症のリスクが高くなってきています。

厚生労働省では、**クールワークキャンペーン**を提唱し、**5月～9月を熱中症対策のキャンペーン期間**、**7月を重点取組期間**としています。

暑さ指数(WBGT値)の把握、設備対策の検討、休憩場所の確保の検討、教育研修の実施等、適切な熱中症対策の実施をお願いします。

死亡災害事例

業種 林業

事故の型 激突され

起因物 立木

発生時期 平成29年3月

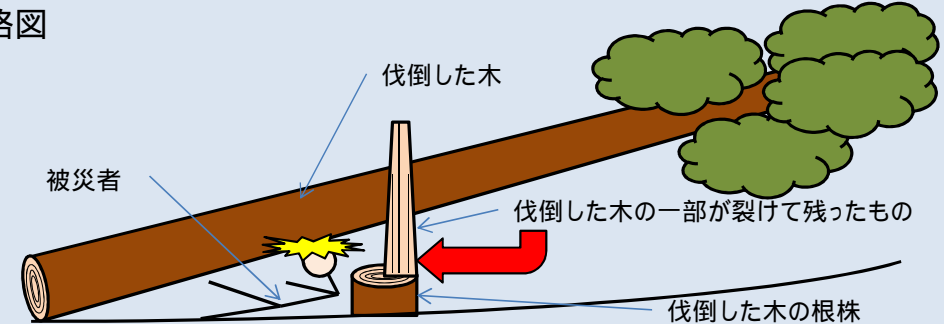
災害発生状況

杉立木(樹高約25m、胸高直径約30cm)を斜面上方向に伐倒したところ、幹が裂け上がり、その反動で跳ね上がった伐倒木が、退避しようとしていた被災者の上に覆いかぶさるように落下し、地面と幹の根元の間にはさまれたもの。

災害発生原因

- ・伐倒木が倒れる途中で幹が上方に裂けたことにより、伐倒場所が後ろにずれたこと。(Barber chair現象という)
- ・本件は、受け口の下切りの高さ、追い口の高低差がほとんどない切り方であった。このような場合は、広い受け口角度により、必要十分なつる幅を決めてから倒伏させる必要があるが、実際には、受け口の下切りの深さは抜根直径の4分の1以上よりも少なく、かつ、つる幅が抜根直径の10分の1よりもかなり幅広になっておりつるが有効に機能しなかったこと。

概略図



再発防止対策

- ・受け口の下切りの深さは抜根直径の4分の1以上とするとともに、つる幅が抜根直径の10分の1程度となるように受け口と追い口を作ること。
- ・Barber chair現象により伐倒方向の真後ろに倒れるリスクがあることから、伐倒方向の真後ろではなく、伐倒方向の斜め後ろ45度の位置に退避するようにすること。